

“通常の学級における”

「特別支援教育」の視点を 取り入れた授業づくり



通常の学級において、特別な配慮や支援を必要とする子どもがいる場合があります。特別支援教育（特別な支援を必要とする子どもたちへの指導・支援）の視点を通常の学級の授業づくりに活かすことは、特別な支援を必要とする子どもたちだけでなく、すべての子どもたちに対しても効果が期待できます。

例えば、導入場面で、一部の子どもの特性に応じて学習課題（めあて）を分かりやすく提示することは、他の子どもたちにとっても、学習課題（めあて）が明確になります。

このパンフレットは、先生方が「特別支援教育」の視点を取り入れて授業づくりを行う際に役立つことを目的として作成しました。授業で大切にしたい「特別支援教育」の視点を振り返るチェックリスト、視点を具体化するアイデア例、校内でアイデア例を共有するための研修例の3つで構成しています。

各学校での「特別支援教育」の視点を取り入れた授業づくりに活かしていただきたいと思います。

チェックリスト

どの学年の、どの授業でも大切にしたい「特別支援教育」の視点を、「環境」「授業」「その他」の面から振り返ってみましょう。

原則として、それぞれの項目は、次のような2通りの想定で構成しています。

**A 特別な支援を必要とする子どもだけでなく、
すべての子どもに対して**

B 特別な支援を必要とする子どもに対して

日々の授業や校内研修等で、視点を確認してみましょう。

環 境

①授業を始める前に

- 1-A 授業に関係のない、トロフィーや賞状、写真などに視線や気持ちが向かないよう、教室の環境に配慮していますか。
- 1-B 授業の準備ができていない子どもに声をかけるなどの支援の手立てを考えていますか。

授 業

②授業全体を通して

- 2-A 子どもたちの学習状況に応じて、「聞く」、「書く」などの活動を使い分ける工夫をしていますか。
- 2-B 板書を書き写したり、メモを取ったりするのが難しい子どもへの支援の手立てを考えていますか。

③導入の場面

- 3-A 学習課題（めあて）を黒板に提示していますか。
- 3-B 集中力が続かなかったり、学習の手順がつかみにくかったりする子どもへの支援の手立てを考えていますか。

④一人で考える（活動する）場面

- 4-A 考える視点や道筋を示していますか。
- 4-B 子どもたちのつまづきのパターンを把握して、そのパターンに応じた支援の手立てを考えていますか。

⑤グループで活動する場面

- 5-A 活動の目的や手順を子どもたちに示していますか。
- 5-B 活動に参加しにくい子どもへの支援の手立てを考えていますか。

⑥発表・話合いの場面

- 6-A 学年や時期、定着度に合わせて発表の話型を変えて示していますか。
- 6-B 友達の発表を聞けない子どもや、話し始めたら止まらない子どもへの支援の手立てを考えていますか。

⑦まとめの場面

- 7-A 学習した内容が明確になるように、子どもたちが確認したり、振り返ったりする場を設けていますか。
- 7-B 確認したり、振り返ったりするのが難しい子どもへの支援の手立てを考えていますか。

その他

⑧家庭学習を指示する前に

- 8-A 家庭学習の内容が子ども一人一人に伝わるような工夫をしていますか。
- 8-B 何をしてよいのか分からない子どもへの支援の手立てを考えていますか。

⑨指導者間の連携

- 9 ティームティーチングや支援員などが入った授業では、それぞれの人の役割を明確にし、また、相談する方法を決めていますか。

アイデア例

チェックリストの項目それぞれを具体化するためのアイデアには様々なものがあります。ここに示したアイデア例を参考に、各学級や子どもの実態に応じて授業づくりを進めることが大切です。

環境

① 授業を始める前に



< 教室前方の掲示例 >

不必要な刺激を視野に入れないために、教室前側の掲示物は、最小限にします。例えば

- 学習に必要なもので実際に使用するもの。
- 一年間または学期を通して張り替えをしないで使用するもの。

子ども同士で確認したり、教え合ったりするための指示例

教科書〇〇ページを開きましょう。
隣の人と確認しましょう。
先生の後について読みます。

支援が必要な子どもの近くで、さりげなくことばをかけた例

机の上には3つの物を出します。
本とノートとふでばこです。



全員が指示を理解できているかどうかの確認例

教科書の45ページを開けます。
前から3行目です。
指で押さえてごらん下さい。



< 学習用具を整えて授業を始めた例 >

授業

② 授業全体を通して

板書を書き写したりメモをするのが難しかったりする子どもには、何箇所かを空欄にしたワークシートを用意しておくことも有効です。

正三角形の角の大きさを調べよう

1辺が cmの正三角形
()°
1辺が cmの正三角形
()°

(予想) ①

②

まとめ

< 個に応じたワークシートの例 >



③ 導入の場面



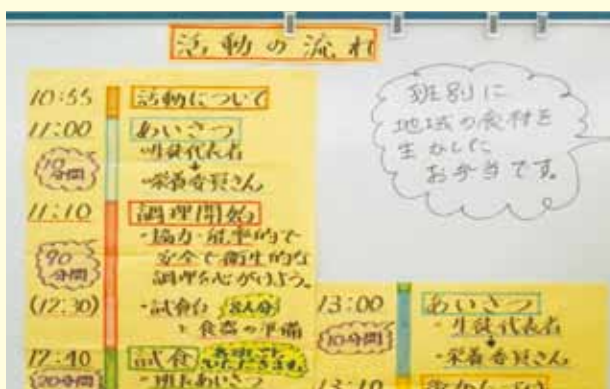
< 学習課題の提示例 >

学習課題（めあて）は黒板などにはっきりと示し、何を学ぶ時間なのかを明確にします。

学習シート	教科書 P00 ~ 00まで
〇月〇日()	『一つの花』
今日の学習	学習課題（めあて）
1 漢字の練習	一人で新しい漢字が書けるように練習する。
2 音読	先生の音読について読む。 友だちと一緒に声を合わせて読む。
3 ワークシート 発表	ワークシートに取り組む。 友だちの発表を聞く。 わからないところは、発表を聞いてシートに書き込む。
4 提出	全部書き込めたら、先生に提出する。

< 個別の学習シートの例 >

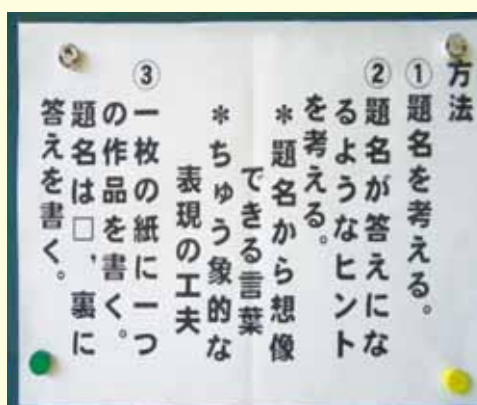
学習内容と学習課題（めあて）をシートなどにまとめ、必要な子どもに示して、自分で確認できるようにします。



< 活動手順の提示例 >

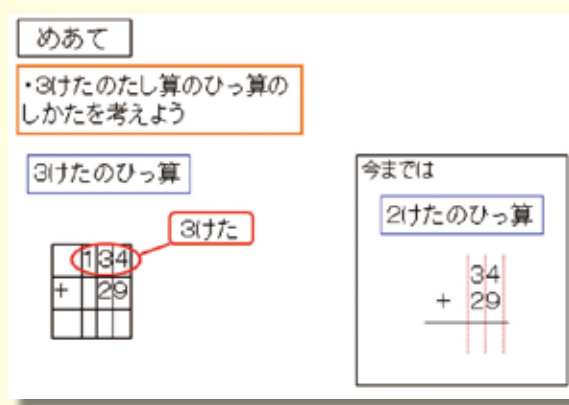
教科の内容によっては全員に活動手順を示すことも効果的です。また、特別な支援を必要とする子どもにのみ、さりげなく手順を示すことが効果的な場合もあります。

④ 一人で考える場面



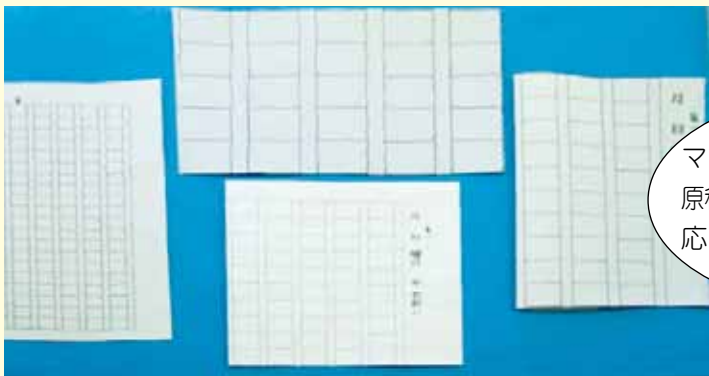
< 考える視点や活動の分量を示した例 >

何をどのように考えればよいのかを示しています。また、どのくらいの分量の活動なのかを示すことで、子どもが見通しをもって考えやすくなります。



< つまづきに応じた個別のヒントカードの例 >

学習課題(めあて)を既習内容と比較し、キーワードと視覚情報で分かりやすく示した例です。つまづいているところを、カード等で個別に示すことで、子どもが考えやすくなります。



マス目の大きさと数を変えた原稿用紙を複数用意し、子どもの力に応じて選択できるようにします。



＜マス目の大きさや数の異なる原稿用紙の例＞

文字を書きにくい子どもが書きやすくなったり、多くの枚数を書くことができ自信を持てたりする効果があります。

⑤ グループで活動する場面

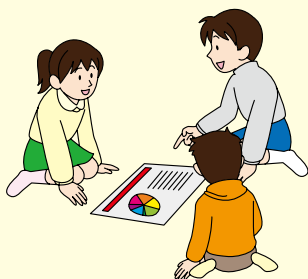
活動の前には、説明が長くならないように気をつけます。活動の手順を図で示したり、完成した状況を示したりするなど、活動の内容や目標が、子どもに伝わっているかどうかを確認しながら説明します。



＜グループで活動手順を確認できる工夫例＞

すべての子どもに、活動手順の確認がしやすいように、全体に提示したものを縮小して各班に示しています。

グループ活動の前には、特別な支援を必要とする子どもが活動しやすいグルーピングをすることが重要です。



年 組		座 席 表			
氏名	座席	氏名	座席	氏名	座席
佐藤 太郎	1	田中 花子	2	山田 健太	3
鈴木 次郎	4	高橋 真由	5	清水 悠太	6
渡辺 誠也	7	伊藤 美咲	8	木村 拓海	9
山本 光太郎	10	佐々木 莉子	11	小林 大輔	12
中村 健一	13	藤田 拓也	14	松本 健太	15
山崎 健太	16	佐藤 健太	17	山田 健太	18
佐藤 健太	19	山田 健太	20	山田 健太	21
山田 健太	22	山田 健太	23	山田 健太	24
山田 健太	25	山田 健太	26	山田 健太	27
山田 健太	28	山田 健太	29	山田 健太	30

＜座席表による情報共有の例＞

教科担任制の場合など、子どもの配慮事項を記入した座席表を各教員が持つことで、情報を共有でき、継続した指導・支援を行いやすくなります（座席表の扱いには注意が必要です）。

⑥ 発表・話合いの場面



＜発表の仕方を分かりやすく示した例＞

発表がしやすくなるよう、教室前方等の見えやすいところに話型を示します。話型は、話し合いを深め広げる上でも、学び合いを促す上でも効果的ですが、定着させるには工夫が必要です。



＜話を聞きにくい子どもへの指導例＞

話を聞きにくい子どもへ、話すときと聞くときの音量の違いを意識させる指導をします。聞くときには、自分自身の声が「0の声」であることを視覚的に示したり、場面による話すときの音量の違いを視覚的に示した例です。

⑦ まとめの場面



< 授業を振り返ることができる板書例 >

1時間の授業の終わりには、その授業での子どもの思考の流れが分かるような板書が求められています。

始めに「何をするのか」が分かり、最後に「何をしたのか」が明確になっていることが重要です。

授業の終わりに、隣同士あるいはグループで学習内容について確認することは、一人での振り返りが難しい子どもへの支援につながります。



その他

⑧ 家庭学習を指示する前に

家庭学習の課題内容が、子どもに伝わっているかどうかを、隣同士で○をつけ合うなど、確認することが大切です。

また、授業の中で課題に少し取り組ませるなど、子どもの理解の程度や学習技能を把握し、課題の内容や方法を調節するなどの工夫も必要です。



< 準備物や課題等を一人一人に伝える工夫例 >

準備物や課題等を1か所にまとめて示すことで、必要なときに、子どもが自分で確認できるようになります。

⑨ 指導者間の連携

他の教員や支援員と協力して行う授業では、その時間の互いの役割や予想される子どもの反応を、事前に相談しておくことが大切です。

指導者同士が相談する方法（共通ノートを使う等）や時間を、特別支援教育コーディネーター等を中心に、学校内で話し合っておくと、連携がスムーズになります。



授業づくりの視点を共有するために

～校内の多くのアイデアを共有して～

このパンフレットに示したアイデアは、多くの実践の中の一例であり、各学校には、これ以外にも多くの実践があります。各校で、多くのアイデアを出し合い、共有して各自の授業力を高めていくことが大切です。

研修の進め方（例）

①各自で振り返って、カードに記入しましょう。

- ・支援を必要とする子どもたちに、〇〇〇のような取組をしています。
- ・これまでに、〇〇〇のようなことに取り組んだことがあります。

②グループで話し合しましょう。学年ごとのグループ、関係の深い先生も入ったのグループなど、5人程度のグループを意図的に作って話し合しましょう。

③各グループから、話し合ったことを発表しましょう。

④各グループで話し合った取組を資料にまとめましょう。

⑤まとめた資料を職員室に掲示したり、実際の教材等を展示したりして教員間で共有しましょう。



< 作成した教材等をもとに研修します >

さらに深く学ぶために

指導・支援について、さらに深く学ぶためには、県教育庁指導課特別支援教育室や県総合教育センターのホームページから、次のデータベースや資料を参照してください。

●岡山県教育庁指導課特別支援教育室

通常学級における特別支援教育リーフレット・校内支援データベース

岡山県 特別支援教育室

検索

●岡山県総合教育センター 特別支援教育部

『通常学級における特別支援教育の観点から見た学級経営・授業づくり』（プロジェクト研究）

岡山県 総合教育センター

検索